

研究課題

次のテーマから1つ選んで、マイクロ計量経済学の手法について考察するか実証研究をせよ。

1. 配布文献(1) (Deaton, Angus (2010) “Instruments, Randomization, and Learning about Development”, *Journal of Economic Literature* 48, 424-455)、参考文献(14 A2) (Keane, Michael P.(2010) “Structural vs. Atheoretic Approaches to Econometrics”, *Journal of Econometrics*, 156, 3-20)を読んで、理論に基づく構造推定と自然実験に基づく経済評価推定の違いについて批判的に評価しなさい。
2. 非線形モデルに対して最尤法推定を行い、その評価をしなさい。データは過去(本年度に限定されない)の授業で配った各種データを用いてもいいし、各自で入手したデータでもよろしい。問題意識と使用するデータ、使用する分析手法の整合性に注意せよ。分析テーマは自由であるが、自ら新たに問題を設定して実証することが望ましい。その際、データの加工から、回帰分析、作図、作表まですべてを **STATA Do-file** で行うこと。配布したデータに対して **STATA Do file** を走らせることで、結果までたどり着ける工夫をし、**Do file** を論文とともに送付すること。
3. 修士論文やその他の研究で用いている自らのマイクロデータを用いて実証せよ。その際、できるだけマイクロ計量経済学の手法を用いること。データの分析の方法や結果の導出が判るように論文を書くこと。

実証上の問題点や相談を随時受けつけます。直接研究室に来るか、メールで連絡して下さい(kitamura@ier.hit-u.ac.jp)。紙幅は自由ですが、最低でもA4 10ページ程度のレポートを書いてください。

提出期限は8月12日(厳守)。提出は電子メールで受け付けます。